

水辺で遊ぶ通信 MIZUBE NI ASOBU KAI

No. 37
2008・秋の号

発行
NPO法人
水辺に遊ぶ会
大分県中津市中央町2-8-35
TEL &FAX 0970-23-5220

ネハネハを出して沖に向かって泳いでいくし、なにやら魚の群れも通り過ぎていく。引き潮に乗つて、みんな沖に向かつてゐるんだ。その魚たちを労せずしてつかまえちゃおうつてのがササヒビの原理。さて、ヒビはどうどんどん狭くなつて、最後のところに網が待ちかまえている。

▼セイゴ、チビラ、サヨリ、サツパキスゴ、ギス、ガザミ、イカ：色もカタチも様々な魚がキラキラ光つてゐる。数は多くないけど、なんていろんな種類の魚がいるんだろう。豊前海の豊かさの一端を見たような気がするよ。

キーハキーハ身を躍らせる魚たちに
海と川の豊かさを実感する瞬間

△前の日から漁師さんが川に仕掛けてくれた「張り網」を引き上げると、おおお、いろんな魚がかかっている。ギギ、アユ、オイカワ、フナ、ムギツク、ドンコ、そしてヨツメにウナギ。海だけじゃない、山国川だって豊かなんだって実感。それから「投網」も見せてもらう。川面にドレスの裾のよう広がる網の美しいこと！ すごいすごい！ 最後は捕れたお魚を、みんなで塩焼きしていただきました。ちよつとかわいそうだったけど、「ゴメン、おいしかった。お魚さん、ゴチソウサマ」テシタ。

持ちか伝わるから、子ともたちも大人もみんな笑顔があふれるんだろうね。そしてそれを見守る漁師さんの顔にも笑顔があふれる。中津ん自然や、そこでいのちきする人々がおかれている状況は、決して楽しいことばかりじゃないことは、いろんな活動を通じてちょっとずつわかってるつもり。でも、だからこそ、たくさん的人が出逢い、笑いあえる場所を作ることが、水辺に遊ぶ会ができるしさやかなことなのかな、なんて生意気を思つたりするのである。▼さあ、今度は何して「中津ん水辺」で遊ぼうか！

▼抜けるような秋空の下、久々登場アヤシイ千潟探検隊なのであります。▼中津川の河口の堤防をおりると、沖の方になにやら横長の物体が見えます。ジャブジャブと波をけりながら歩いていくと、おおお、これがウワサのササヒビでありますか。陸から見ると違つて意外にデカイ。え？ 片側だけで200Mもあるの？ ワタシが切つた竹もどこかに使われてるんだろうか？ 竹に名前書いときや良かったな。なーんて思いながら歩いていくと、海がどんどん深くなる。足元ではハマグリがデローンと

▼それに、この復活ササヒビの本当の目的は、アサリの赤ちゃんのゆりかごをつくること。たくさん人の人の想いが集まってきたササヒビだから、来年の春には小さなアサリがたくさん姿を現しているに違いない。

△あれれ?なんだか「水辺に喰らう会」になつてない? 私たち、
△じゃなくて、「水辺に喰らう会」になつてない?
△でも、食べることは人間の基本。
△中津ん空氣を吸つて、中津ん水を飲んで、中津でとれたものを食べる。
△もちろん自然の生命をいただくことに感謝をこめながら。

▼海の漁師さんも、川の漁師さんも「子どもたちが喜ぶんなら」「子どもたちに見せちゃりたいけん」そういつて、私たちの無茶な計画に気持ちよく協力してくれる。モチロンみんなボランティアである。そんな気

- 活動報告(2008.7.1～2008.9.30)

 - 7. 2 アジア太平洋立命館大学干潟学習
 - 7. 3 アサヒワンビールクラブ様より活動支援金授与
 - 7. 5 カブトガニ標識調査
 - 7. 6 舞手川コドラーート調査
 - 7. 7 中津干潟保全の会会合
 - 7. 8 水産庁環境・生態系保全活動支援制度検討会出席
 - 7. 11 大分県道州制研究会出席
 - 7. 12 カブトガニ標識調査・産卵調査
 - 7. 13 N P O 法人おおいた水フォーラム設立総会出席
 - 7. 14 ササヒビ建て込み手伝い
真玉中・高田土木事務所海岸清掃講師
 - 7. 15 ササヒビ建て込み手伝い
 - 7. 17 中津市長にササヒビ報告
 - 7. 18 出張県議会にて中津干潟について発表
 - 7. 20 森林づくり指導者講習会参加
 - 7. 21 ササヒビ建て込み手伝い
 - 7. 22 中津市小学校教諭初任者研修講師
中津市景観計画策定委員会出席
ササヒビ建て込み取材同行
 - 7. 24 大分県協働推進会議出席
 - 7. 25 親子で楽しむ森林教室検討会議
 - 7. 27 竹切り作業（豊後高田）
 - 7. 30 竹整理作業(小祝漁港)
 - 7. 31 カブトガニ産卵調査・幼生調査
 - 8. 1 竹切り(豊後高田)竹整理(小祝)
 - 8. 2 夏休み干潟観察会実施
カブトガニ産卵調査・幼生調査
 - 8. 3 竹搬出(豊後高田)竹整理(小祝)
 - 8. 4 中津市夏休みキッズサイエンスサポート(学習館)
竹整理作業(小祝)
 - 8. 5 中津川トビハゼ隊現地視察
 - 8. 6 中津干潟保全の会会合
 - 8. 15 山国川学習館受託・引き渡し
 - 8. 18 大分県男女共同参画推進会議出席
 - 8. 19 三百間浜・大新田・舞手川河口調査
 - 8. 20 中津川生物調査
 - 8. 23 竹切り作業(三光)
 - 8. 26 「イカダを作つて流れよう」実施
 - 8. 28 アカテガニ産卵観察会実施
 - 8. 29 ササヒビ予行演習
 - 8. 31 カブトガニ産卵調査・幼生調査
 - 9. 5 親子で楽しむ森林教室下見
 - 9. 9 竹整理作業(小祝)
 - 9. 11 中津中央ロータリークラブ二木会にて講演
 - 9. 13 ササヒビ体験実施
 - 9. 14 中津水処理組合にて講演
第2回大新田ビーチクリーン&漂着物調査実施
 - 9. 16 ササヒビ底生生物調査
 - 9. 17 東九州龍谷高校 P T A にて講演
 - 9. 18 大分県地方港湾審議会出席
 - 9. 19 全漁連シンポジウムにてパネリスト
 - 9. 20 親子で楽しむ森林教室実施(山国)
 - 9. 23-24 山国川学習館研修(ダム・事務所)
 - 9. 26-27 竹搬入作業立ち会い(小祝)
 - 9. 28 竹整理作業(小祝)



11月22日(土) 水辺に遊ぶ会 山に登る

8:00中津合同庁舎集合 17:00解散(予定)
バスで移動します・参加費無料・雨天時は24日(祝)に延期

持ち物：弁当・水筒・タオル・履き慣れた運動靴・雨具(かさ・カッパ)・帽子
筆記用具・あれば双眼鏡やルーペなど

★要予約行事です★参加希望の方は必ずご連絡下さい。9月に続きご参加の方も再度ご連絡下さい。定員に達し次第締め切ります。

**12月7日(日) 大新田ビーチクリーン
&漂着物調査 今年最後**

集合：11:00大新田海岸（セブンイレブンさん奥）
作業のできる服装と靴でどうぞ 参加費無料・大雨中止

※駐車場はファミリーマートさん奥小楠クラブさんグランドをなるべくご利用下さい。

1月24日にはあのオジサン(子ども科学電話相談室)もやってくるよ!

おしらせとおねがい

NPO法人水辺に遊ぶ会では、8月15日より山国川学習館（国土交通省山国川河川事務所内）の管理運営業務を受託することとなりました。流域の水環境学習や防災学習の拠点として、また、地域の人々の交流の場として、皆さまに愛される、地域に根ざした山国川学習館を目指したいと思います。水辺に遊ぶ会同様に、山国川学習館にも、あたたかいご支援をよろしくお願いいたします。

山国川学習館の11月12月の行事（★詳細は事務局まで）

川のおそうじと漂着物アートを作ろう●11月15日(土) 12:30~16:00

石ころ観察会とストーンペインティング●12月21日(日)10:30~15:00

**ササヒビ・浜遠足・貝掘りなど
黄の海の瓦真を探しています**

★毎月11日はジャスコでお買い物★イオン三光SCイエローレシートキャンペーン★
毎月11日にお買い物をした黄色いレシートを食品レジ前の「水辺に遊ぶ会」BOXに入れていただぐと、金額の合計の1%が水辺に遊ぶ会の活動資金として寄附されます。

ホームページ営業中！遊びに来てね!!

<http://www.max.hi-ho.ne.jp/v-ashikaga/>

水辺に遊び会 MUSEUM
水辺に遊び会ミュージアムは「建物のない博物館です」
<http://www.geocities.jp/kabunyukun/index.html>

メールはこちらへ→mizube1999@yahoo.co.jp

■「海に降る雨は海色秋深し」保坂リ工作
竹が海色に刺さってフジツボが囁いています。 (あ)

■ササヒビ倒れるんじゃないかと心配した台風も
来ないまま涼しくなりました。夏の行事ラッシュ
も終わって、ほっとひといきの事務局です。 (う)

ササヒビ

なんでも辞典

ササヒビの語源

◆ 諸説紛々ではあります、まず「ヒビ」の語源です。これは海苔漁と深い関係があるようです。

◆ 江戸城に毎日魚を献上する「日々御菜肴(ひびこさいさかな)」を命じられた漁師が不漁の備えに木枝や竹で生簀(いけす)を作つて魚を蓄えていました。その生簀に海苔が付着して海苔養殖が始まりました。日々の御菜や魚を探つていた漁師が使つた棒なので、それがヒビと呼ばれたという説。

◆ あるいは、浅瀬に竹を突き刺して作った囲いに入つた魚を捕る日々網漁(ひびあみりよう)をしていた漁師が、その竹に付着した海苔を見て養殖を考え、日々網に使われた竹棒だったからヒビと呼ばれた説。

◆さて、残るは「ササ」であります

が、これは単純に葉(ササ)のある竹

を用いたといふことで、ササ+ヒビ

ではないかと想像するのであります。

◆ まずは有明海の竹羽瀬漁。中津の潮位差が5メートルなので、竹の高さも5メートル! 孟宗竹の節にあけた空気抜きの穴に満潮時には水が入り、安定性が増すしくみ。潮が立つので、魚は驚いて右往左往していくという効果があるとか。エビ、カニ、アナゴ、イカなどがかかるそうです。

◆ おとなり韓国の慶尚南道の南海地区で今も行われている漁箭(オチユン)、別名箭防簾(チュンバンリヨン)も造りは同じですが、先端の網の部分も竹力ゴでできています。

※昔は中津のササヒビの先っちょの網も竹力ゴだつたそうです。

◆ もつとおもしろいのはベトナムでの竹馬漁。小エビや小魚を捕るために竹馬を利用するのですが、大きな網を使いたいが両手は使えない。どうするか。えー、竹馬を足首とヒザに固定してしまえ。という訳です。そして、村一番の竹馬漁師だつた人が振り付けをして竹馬パフォーマンス集団を作り、イベントに引っ張りだこになった挙げ句、ベトナム文化省大臣から表彰を受けたとか。

◆ 所変われば品変わる。でも、竹と漁業は切つても切れない間柄のよう

です。

中津以外のササヒビ



情報求ム!!



さらに情報求ム!!

「水辺に遊ぶ会に登る!」イベントの途中、M隊員との隊員が、アカツクの下で「エビフリヤー」を発見。エビフリヤーと言っても名古屋のアレじゃない。リスだよ。リス。リス見たことある人は、至急ジギョクまで連絡されたし。ごほうびはありません。おしからず。



情報求ム!!

水辺に遊ぶ会に登る! ジギョクに「ウミガメのアブラガドラム缶であるんですけど、どうしたらいいでしょう?」という極秘情報が入った! 「ウミガメのアブラ」いったいこの魔物不思議な物体の正体は何なのか?

そして、一体何に使われていたのか? 全国1万人のガタガタ読者の諸君、キミの情報を待っている!

あ、ちなみにね、このウミガメのアブラはドラム缶に穴が空いて流れちゃって、もうないんだけどね。

中津師匠に聞く 『竿干見漁』

9月20日 キノコハカセと山の達人と一緒に山に登った
キノコの新しい顔を知った

- 我々が見ているキノコは、実は仮の姿。本当の姿は土の中なのだ。だからぜんぶ取り尽くしても問題なし。
- キノコは植物や動物の「遺体」を食べて分解し、地球の役に立っているのだ。
- キノコの研究はあまり進んでない。だから、今から勉強すれば、キノコ博士になれるかも。
- 実は図鑑はアテにならないらしい。(こわいバビ感心)
- 毒が食べられるかは、結局のところ食べないとわかんない。それでも食べるぞ! と言うときは、後世の研究のために、なんのキノコを食べたか見本を残しておく。

★★相良先生・泉先生ありがとうございました★★

よい子の里海里浜図鑑



ササヒビは日本全国にあるのか?
遠浅じゃないと出来んきね。
(次号へつづく)

中津師匠に聞く
『竿干見漁』

アサリ貝ちゅううたけどね、40年前後ヒビがなくなつた、その後45年くらいにヒビの竿のカブが残つてしまつた、そこにアサリ貝が、ハマグリはぴょんと飛ぶけど、とにかく、そこにいるけど、ハマグリは特にそこに寄りよつた。ヒビは立つているやう。約2mくらいあるから、ハマグリは50~60cmの竿がないと水の中でジャンプする。ハマグリの養殖は50~60cmの竿をせんと出します。竿の丸くしおうて、戻つてくる。ここに丸くしてこのヒビの(端の)丸くしおうてやらんと、また帰るわけ。そういうことでここに一本丸くカーブを伝うて来てから、またバツくしてこういう形で竿を刺しそうた。魚も逃げようと思つてこれに伝うて、戻つてくる。ここに丸くして角の真つ直ぐだつたらまた反対向きに逃げる可能性がある。昔の人があしんじゃきね。